

学部等名	応用生物学部
------	--------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
東京工科大学の基本理念に基づき、生命科学と工学を融合した教育・研究を通じて、生活の質の向上と技術の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。バイオテクノロジーの発展に寄与する実践的能力と倫理観を備えた専門人材を育成し、持続可能な社会の実現に貢献します。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
生命の仕組みを理解し応用する教育を通じて、医療・健康・環境・バイオ産業などの分野で社会的課題の解決に貢献できる人材を育成しています。地域社会や企業との連携を重視し、実践的な研究活動を通じて、持続可能で豊かな社会の実現を目指しています。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
教育目標や育成する人材像を明確にし、大学ウェブサイトやシラバス、ガイダンスを通じて学生に分かりやすく周知しています。また、教職員間での定期的な会議やFD活動を通じて教育方針を共有し、一貫した指導体制を維持しています。これにより、学生と教職員が共通の理念のもとで教育・研究に取り組む環境を整えています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

教育および研究指導の質を継続的に高めるため、学部長と教務委員会を中心に全教員が協働して教育内容やカリキュラムの点検・改善を行っています。授業アンケートや学生・教職員からの意見をもとに検討を重ね、実験・実習科目や研究指導の充実を図っています。これらの結果は教授総会やアゴラで共有され、教育活動全体の質向上に活用されています。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

教育・研究活動の現状を客観的に把握するため、教員による授業点検や学生による授業アンケート、学修成果の分析結果などを基に、学部内で課題や改善点を整理し、次年度の教育計画やカリキュラム見直しに反映しています。評価結果は教職員間で共有され、教育・研究の質向上に向けた具体的な取組へとつなげています。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

法人本部総合企画局戦略企画部と連携し、学生の学修成果、履修状況、授業評価、進路状況などのデータを体系的に収集・分析しています。これらの結果を基に、教育課程や実験・実習科目の改善、学修支援体制の充実を図るとともに、自己点検・評価に活用し、教育の質保証と継続的な教育改善に役立てています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

授業アンケート、アドバイザー面談、キャリア支援行事、卒業生・産業界との意見交換会などを通じて、多様な意見や要望を収集しています。これらの情報は学部の教務委員会、学生委員会、就職委員会等で検討され、カリキュラムや研究指導内容の改善、実践的教育の充実へと反映されています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

応用生物学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミSSION・ポリシーの3つのポリシーを明確に定めています。これらは大学ウェブサイトや学生便覧、学生ポータルなどを通じて周知されています。ポリシーは教育内容の構築や学修成果の評価基準に反映され、教育活動の質保証と継続的改善に活用されています。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

生命科学とバイオテクノロジーの体系的理解を深めるため、基礎から応用、さらには研究・産業応用へと段階的に発展する教育課程を構築しています。講義・実験・卒業課題を有機的に組み合わせ、科学的探究力や技術応用力、生命倫理観を身につける実践的教育を展開しています。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

DPに示された能力の達成を確認するため、科目ごとに明確な評価基準を設定し、シラバスを通じて周知しています。これに基づき、試験・レポート・実験成果・プレゼンテーション等の多面的評価を実施しています。これにより、学修成果を客観的かつ厳格に判定しています。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

講義に加えて実験・実習・グループワーク・PBL（課題解決型学習）を積極的に取り入れていきます。学生が自ら仮説を立て、検証し、成果を発表する過程を重視することで、主体的学修力と科学的思考力を育成しています。これにより、研究力と社会実装力を兼ね備えた人材の育成を目指しています。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

3つのポリシーに基づき、学修成果を定期試験だけでなく、実験記録、研究発表、日々の課題への取り組みなど多面的に評価しています。各科目の到達目標に沿って評価を行い、卒業課題では複数教員による審査を実施しています。これにより、「知識および技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の総合的な達成度を把握しています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

応用生物学部を含む本学では、教員の採用・昇格に際し、教育能力、研究実績、社会的貢献、学内運営への参画などを総合的に評価する明確な基準を設けています。これらの基準は大学規程および教員人事関連文書に明示され、学内で共有されています。審査は大学人事委員会の審議を経て、公平性を担保したうえで厳正に実施されています。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

大学全体の FD 方針に基づき、授業内容や教育手法の改善を目的とした FD 活動を年間約 10 回実施しています。例えば、授業アンケートや IR データの分析結果を共有し、実験・実習指導や研究教育の工夫に関する事例報告や意見交換を行っています。これにより、教育の質向上と教員間の教育力向上が図られています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

教員の教育・研究活動の成果を、教員相互による授業点検、学生による授業アンケート、研究業績報告、自己点検評価等を通じて把握しています。得られた結果は FD 活動や人事評価に反映され、教育改善や研究推進に活用されています。また、外部資金獲得や学会発表、論文業績なども評価対象とし、教育・研究両面での発展を支える体制を整えています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

生命科学とバイオテクノロジーに関する基礎と専門的な知識・技術を修得することを目指しています。このため、産業界と密接に関連する生命医薬、地球環境、食品、化粧品コースを設置し、実験・研究を通じて実践的に学ぶ教育を展開することで、社会や産業の課題解決に貢献できる人材育成を行っています。特に化粧品コースは、化粧品の基礎から応用までを正課として体系的に学べる日本初のコースであり、各種メディアで取り上げられなど、全国的に注目されています。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

バイオ関連企業や研究機関との産学連携教育、実践的研究活動を推進しています。また就職支援について精力的に取り組んでおり、就職特任講師によるキャリア系講義、学内外インターンシップ、OBを含む企業研究者による特別講義など多くのイベントを通して、学生の社会人基礎力を育成しています。こうした活動により、本学部は毎年全国の農学系就職ランキングの上位に位置しています。さらに、最先端のバイオ研究機器が整備されたバイオナノテクノロジーセンターを活用することで、他大学にはない実践的教育・研究を実現しています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。